

県民のみなさんへ

熊本県知事 細川護熙



楠若葉が美しい季節になりました。私たちも四月から新年度を迎え、気持ちを新たにして県政に取り組みます。

私が知事に就任して以来三年が経過しましたが、この間、活力ある郷土づくりを目指して積極的な県政の運営に努めて参りました。幸い、皆様のご理解を頂くことが出来まして、全国的に熊本が話題となることが多くなったと思っております。

今年度も本誌の中で詳しくご説明いたしておりますとおり、限られた

財源を効率的、重点的に配分し、多様化し増大する行政需要に対処して参りたいと存じております。

また本年八月から十月にかけて開催される第四回都市緑化フェアも、テーマ館をはじめ各種パビリオンの出展や都市緑化に関する各種イベントなど、着々と準備が進んでおります。さらに、天皇御在位六十年記念植樹も、当会場で行いたいと考えております。

是非このフェアを成功させ、全县土に対する緑化と環境整備の気運をなお一層高めて参りたいと考えておりますので、何とぞ皆様のご協力をお願いいたします。

* * *

ヨーロッパでは「美しい五月」といいます。長い冬の暗い冷たい季節が終って、五月には一斉に花々が咲き始めるからです。太陽を待ちこがれた人々の喜びの季節なのです。これに比べ、一足早い熊本の五月は、ゴールデンウィークと鯉のぼりであり、花々の季節から新緑の季節に入っています。

茶摘み・鯉のぼり・花みかん・楠若葉・麦秋・芽杉等という季節が最もふさわしい頃です。そして卵の花くだしから梅雨に入ってゆきます。皆様にはお元気で毎日をお過ごし下さることを願っております。

県政トピックス

バイオでおいしいお茶づくり。お茶の胚様体形成に成功

このほど県茶業試験場では、バイオテクノロジーを使った茶の「お茶の胚様体」の培養、植物形成の基礎となる胚様体を作り出すことに日本で初めて成功した。

この技術を使えば、気象条件の変化に強く、育成期間も短縮されるなど、お茶の品種改良がますます進むことが期待される。



テクノポリス構想着々とリサーチパーク分譲開始

緑豊かな環境のなかに、先端技術産業の研究開発機関やソフトウェアハウスなどを配置する研究公園づくりとして整備されてきた「熊本テクノリサーチパーク」の用地分譲が四月一日から開始された。

すでに、昨年四月からは、テクノポリス財団の附属研究所「電子応用機械技術研究所」(電応研)が研究活動を開始。この秋にはテクノポリスセンターも完成するなど、中核施設が姿を現わしてきた。



「火」文字にうつとり。阿蘇の火まつり

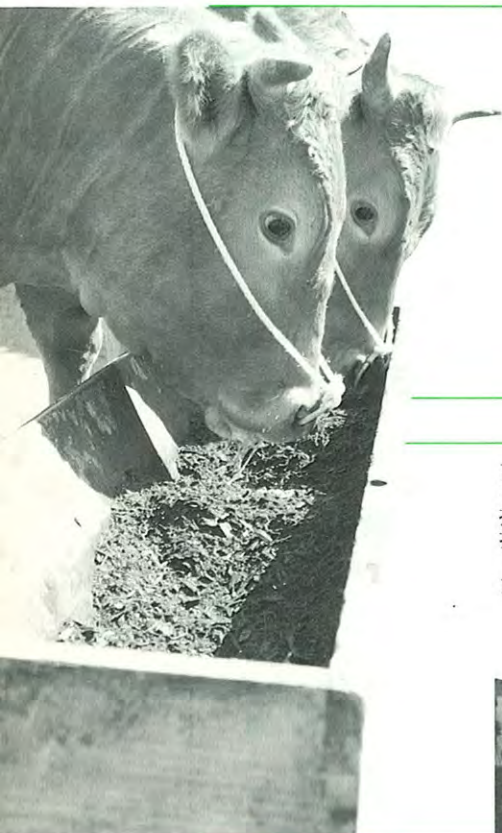
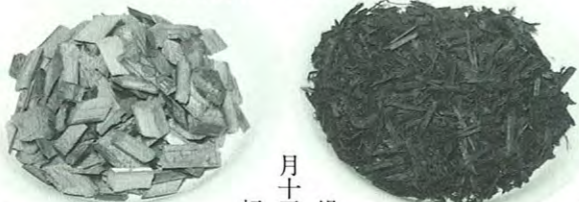
日本列島に春を告げる一大ページェント「阿蘇の火まつり・炎の宴」が今年も三月十六日から二十三日まで阿蘇地方を舞台にくりひろげられた。今年の最大の呼びものは、雄大な阿蘇をバックにした日本一の「大火文字焼き」。夜空にくっきりとうかがびあがった「火」文字は、集まった観光客を魅了した。



竹が牛の手に! バイオ技術を活用した木材の飼料化プラント完成

竹や木材を肉用牛の飼料に転換する試験プラントが、県畜産試験場阿蘇支場に完成。四月十三日から試験運転が始められた。

この事業は、バイオ技術の応用で未利用資源を有効資源に活用する農水省の「バイオマス変換計画」の一環として取り組まれていたものだが、単県レベルで実用化に踏み切るのは、本県がはじめて。



知事と若手リーダーたちが活発に討議。泉村・地域懇談会

三月二十九日、「平家の里」のイメージを基調とした地域づくりを進めている泉村で、若きリーダー十七名と細川知事を中心として、「村おこし」を考える地域懇談会(知事と語る会)が開催された。

リーダーからは「泉村にマッチした観光資源の開発を」といった意見など積極的に出され、一方「雪」が深いのを利用したらスキー場を造ることもできるのでは」というアイデアが知事から披露されるなど、活発な議論が交わされた。

その後、泉村主催で「日本一づくり運動の推進について」と題して知事の講演会が行われた。



いしんの志高く。八代いしん青年隊」発足

八代青年会議所・八代郡市農協青年部等五団体で構成する「八代いしん青年隊」が発足した。

「イ草振興のイ振」で八代の「維新」を図ろうというもので、会員数約三千人。行政と民間の垣根を超えた青年たちの集まりである。

四月十五日、八代郡千丁町で発足式が開かれ、八代郡市は一つの「スローガンのもと、「活力・潤いのある个性的な街の建設を目指す」という大会宣言を採択した。

